

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

自分流の「買い方」で買って 高額当せんした 3 人の話

自分流の買い方で買って「当たった！」という人がある。どういう買い方なのか、その「買い方」を知りたいところだ。

まずは広島県の公務員 I 子さん(60)の場合だ。スクラッチについては「毎回 2 枚買い」だが、まったくハズレた場合は、次の購入を 1 回中断。つまり、ハズレの流れを一旦、断ち切る作戦だ。こうして買い続けて第2136回西日本宝くじで、ついに 1 等100万円に当せんした。

岩手県の自営業 S さん (64) の場合は。宝

くじを買いに行く日の前日に「明日、何時に買うか」を決めるそうだ。翌日は、その時間に合わせて仕事の段取りや体調を整える。こうして買った第21回ロト 7 で 3 等127万8,600円を当てた。

最後は千葉県の会社員 Y さん (53) の場合だ。Y さんには購入に際して「こだわり 3 条件」がある。それは①自分のラッキー数字買い②端数買い③残りくじ買い。この 3 つの要件を念頭に買った第2280回関東・中部・東北自治宝くじで 1 等の前賞100万円を当てた。

どうやら、自分が「よかれ」と思う買い方を考えて、それにこだわって買うことが大事なようだ。



ご当地クーちゃん

北ギリネクーちゃん

宝くじ おもしろ話

今年「50回目」を迎える「宝くじの日」 ～好評の恒例プレゼント行事～

毎年 9 月 2 日を語呂合わせよろしく「宝くじの日」と定めたのは昭和42年のこと。宝くじの時効当せん賞金防止を目的に設けられたもので、この日を中心に各種のお楽しみイベントを開催し、人々に、手元の宝くじ券の当せん番号調べを呼びかけている。その「宝くじの日」は、平成28年の今年でちょうど50年目を迎える。

ファンにとって「宝くじの日」の楽しみは恒例のプレゼント行事だが、初回から今日までの足跡をたどってみると――。昭和42年から47年までは毎回、行事内容が異なっていた。例えば「宝くじデザインコンテスト」(昭和

43年)「(当せん金の支払い期間を当てる)ラッキークイズ」(昭和44年)「シンボルマークコンテスト」(昭和45年)「カラクジ92番を探せ」(昭和46年)といった具合だ。

しかし、昭和48年には、過去 1 年間に抽せんされた宝くじのハズレ券を対象に、番号を再抽せんし、当せん者に賞品を送ることとした。これが大好評で、以後は毎年、その抽せんを「宝くじの日」に実施して今日に至っている。そして、当せん者にプレゼントされる賞品の品ぶれのユニークさもまた人気の要因の 1 つになっている。

平成27年の場合は「下 4 ケタ数字」を 1 つ抽せん。当せん者には次の 5 つの品目の中から、希望の品 1 つが送られた。その品目は①卓上時計②体組成計③魚沼・新潟米 6 キロ④上腕式血圧計⑤ランタン――だった。



ご当地クーちゃん

ジャンボこいのぼりクーちゃん